

文部時報 第七百三十號

目次

卷頭 (明治天皇御製二首 昭憲皇太后御歌一首)

文部省創置七十周年に際して……………文部大臣 橋田邦彦……………二

文部省七十年記念式典に際して……………内閣總理大臣 爵 近衛文麿……………五

教育に對する皇室の殊恩……………宮内省圖書寮編修課長 芝 葛盛……………八

教育七十年を回顧して……………東京農學專門學校校長 田所美治……………一四

國運の進展と教育……………廣島文理科大学長 文學博士 塚原政次……………三七

文政七十年と教學の刷新……………東京文理科大学名譽教授 友枝高彦……………四二

本邦自然科學教育の回顧……………棚橋源太郎……………五三

苦難七十年今日の隆盛^{に達した}實業教育……………東京農學專門學校校長 上原種美……………六三

社會教育奉仕十五年の思出……………東京音樂學校校長 乘杉嘉壽……………七二

女子教育制度の變遷^{のそと}實施^{のそと}の情況……………東京文理科大学名譽教授 森岡常藏……………八〇

明治以來の宗教行政……………東京女子高等師範學校校長 下村壽一……………八八

文部省の思ひ出……………主として美術行政に關する……………伯爵 爵 牧野伸顯……………九二

國寶保存の事業……………東京帝國大學名譽教授文學博士 瀧 精一……………一〇一

田中不二麿と明治初年の文教行政……………子爵 學博士 田中阿歌麿……………一〇五

辻文部次官を語る……………岩垂憲德……………一二二

森文部大臣を偲ぶ……………法學博士 木場貞長……………一二八



明治以來の宗敎行政……………東京女子高等師範學校長 下村 壽一……………八八

文部省の思ひ出——主として美術行政に關する——……………伯 爵 牧野 伸顯……………九二

國寶保存の事業……………東京帝國大學名譽教授文學博士 瀧 精一……………一〇一



田中不二麿と明治初年の文教行政……………理學博士 田中阿歌麿……………一〇五

辻文部次官を語る……………岩垂 憲德……………一二二

森文部大臣を偲ぶ……………法學博士 木場 貞長……………一二八

井上文部大臣を語る……………工學博士 井上匡四郎……………一二七

樺山文部大臣を語る……………伯 爵 樺山 愛輔……………一三三

江木千之先生の追想……………國民精神文化研究所長 伊東 延吉……………一三六

岡田文部大臣を語る……………關屋 龍吉……………一五一

父上田萬年を語る……………上田 壽……………一五六

澤柳政太郎先生を語る……………相澤 颯……………一六一

文部省今昔座談會……………一六七
文部省沿革抄……………文部大臣官房文書課……………一八四

省令……………關令內務省令文部省令厚生省令第一號（映畫法施行規則中改正）……………二二二

訓令……………文部省訓令第二十五號（地方學校管轄職員制ニ依ル職員ノ定員中改正）……………同第二十六號

（青年訓練實施十五周年ニ當リ青年學校生徒代表ヲ御親闕アラセラレタルニツキ 青年及青年教育ノ職ニアルモノノ心得方）……………二二三

告示……………文部省告示第七百五號（中等教員無試験檢定取扱許可學校中改正）……………同第七百六號 同

第七百七號（聖保祿高等女學校・東北高等女學校設立者變更）……………同第七百八號（關西工業學校第二部

廢止）……………同第七百九號（青年學校令施行規則第三十二條第一號指定）……………同第七百十號（中等教員無

試験檢定取扱許可學校中改正）……………同第七百一十一號・同第七百一十二號（本年度開設實業學校教員——農

業・工業——長期講習會要項）……………同第七百一十三號（昭和十六年文部省告示第二百八十五號中改正）……………二二三

敘任及辭令（自昭和十六年六月二十日至同二十八年八月公表ノ分）……………二二六

彙報……………文部省創置七十周年記念事業……………帝國學士院總會及部會……………學位授與……………圖書推薦……………

檢定教科用圖書……………帝國圖書館月報……………蓄音機（レコード）紹介……………轉任……………退職……………死去……………二二三



始末を順々にやつて歩いた。何ういふ特別の手腕のあつたものか、此の點に於いて、三十歳前後の青年校長たる所好評を博した。

一高の校長としては、僅に四ヶ月に過ぎなかつたが、此の間に落合直文外何人かの教授をやめたり、鹿兒島の小學教員谷山初七郎を抜擢して一高の舎監としたり、なか／＼の切れ味を示した。この谷山舎監は、その後向陵健兒の信頼を得た名舎監として、二十餘年の久しきに及んだといふから、彼の人事は成功と言つてよい。但しこの教員は、上田萬年が彼れに薦めたのだといふから、此の二人の中、いづれの眼識が高かつたかは、今でも疑問だ。しかしそれを裁判する必要はない。

その後彼は、彼れの學友松崎藏之助が一橋高商校長として大騒動を起した後を引受けて、これを治めた。それが濟むと東北大學總長、續いて京都大學總長に歴任して、到る所彼れ一流の獨創と、人事の刷新、學内の新陳代謝を行ふので、遂に京大法科總辭職の如き騒動を起したが、しかしその結果からいふと、殆ど總てが成功であつた。

六 民間教育界の總指揮官 さて、澤柳は大正三年七月京大總長をやめて、東京に歸へるや、爾來彼れの生活は一變した。

文部省今昔座談會

座談會出席者氏名

菊池豐三郎 (文部次官)
田中 義男 (文部大臣官房秘書課長)
柴沼 直 (文部大臣官房會計課長)
海後 宗臣 (東京帝國大學助教授)
中村 金藏 (明治十六年寫字生、同二十四年任文部屬、同三十二年文書課記錄掛長、大正九年秘書課恩賞掛長、同十二年兼任東京帝大事務官、同年退官、現在秘書課囑託)
宮下 欽太郎 (明治二十一年總務局備、同二十六年任文部屬、同三十二年文書課往復掛長、大正十三年兼任東京帝大事務官、同十五年退官、現在文書課囑託)
佐原 茂市 (明治二十六年記錄課長、同三十一年任文部屬、大正二年會計課用度掛長、昭和七年任東京帝大事務官、同年退官)
稻葉 武夫 (明治三十年任文部屬、大正九年秘書

三十年來の役人生活を離れて、純然たる野人となつた。而して彼れの教育愛と熱、學力、聲望と、而してもう一つ物質的欲望を持たざる彼れの性格とによつて、民間教育界の大御所となり、教育團體總指揮官としての晴れの舞臺が、彼れの前に展開されてきた。彼は、大正五年二月帝國教育會長に就任。續いて大正八年財團法人國民教育獎勵會長に推されたが、爾來彼れを會長に仰ぐ者枚舉に遑あらず、而して是等の各教育團體は、名實共に會長たる彼れの指揮、指導若くは助言によつて、快よく活動した。

また彼は、久しき以前から、あらゆる國際教育會議に日本を代表して、太平洋を渡ること八回。英語教授の改善を計るため、英國のバーマーをつれて來たのも彼れ。ドルトン・プランのバーカー・ストを我が國の教育界に紹介したのも彼れ。その他、實業家を説いて、外國の學者の研究を助けた事も尠なからず、隨分國際的にも克く働いたが、それが爲に、多くもあらぬ生活費を割かれたり、外國へ行く費用を工面したり、物質的方面には、常に人に知られぬ苦勞があつたのは、いかにも氣の毒であつた。(昭和十六年五月)

仲田 義郎 (明治三十五年建築課長、大正八年任文部屬、昭和五年建築課庶務掛長、同十六年任文部理事官、同年退官)

西 信忠 (明治三十五年任文部屬、同四十四年專門學務局第一課長、大正七年任京都帝大事務官、昭和五年退官、現在專門學務局囑託)

森田 一也 (明治三十七年文書課長、同四十二年任文部屬、昭和九年任文部理事官、同十年退官、現在督學官室囑託)

船越 源一 (大正十五年普通教育事務課長、昭和十二年教育審議會書記、同十四年普通學務局事務囑託)

有光 次郎 (文部大臣官房文書課長、文部時報編輯委員)

野村秀三郎 (文部時報編輯委員)

堀江 半輔 (同)

清水 康平 (同)

一、挨拶

有光 ちよつと御挨拶を申し上げます。今日は次官が初めから出られまして皆様に御挨拶を申上げる筈でありましたけれども、どうしても、次官の司會しなければならぬ會が外にも一つ出来まして、今官邸の方に居られますので、少し時間が遅れます。餘り皆様をお待たせるのも如何かと思ひますので、取敢へず次官がお見えになるまでの繋ぎに私から一言お断りを兼ねて御挨拶を申し上げます。皆様御承知の通り文部省が出来て本年が満七十年に當るわけでありまして、この機会に永く文部省に居られて、文部省の裏表、色々なことを御存じであり、又様々を経験なさった皆様から、文部省の今昔のことに就いてお話を御聴きしたいといふのでこの會を催しまして、お招きを申し上げますところ、皆様にはお揃ひでおいで戴きまして洵に有難うございます。この會を設けた趣旨は、要するに七十年といふ年を機会にして、その七十年間の文部省を振り返つて見、さうしてこの七十年間に文部省がどういふやうな成長をして



文部省がどういふ工合に伸びていかなければ

来たかといふことを承ることが、結局又將來

ら居つたのです。

佐原 外國語學校の所にあつた時からです。なんでも、初めて出来た建物は後で食堂にしてゐた所だと聞いてゐます。その食堂が文部省の建物の全部だつたのですから小さいものでした。

森田 なんでも中村さんの居られた記録掛の所が大臣室であつたといふことでした。

野村 其處ですか、草履取りを從へて出勤すると「誰某少祿殿御上り」と玄關番が言つたといふのは。

西 「御上り」と言はれる人は局長以上の人達でせう。

森田 さうではない。少祿といふのは屬官です。さういふ人でも「御上り」と言はれたのです。

西 それは何年頃のことですか。

野村 田中文部大輔時代なんです。

森田 兎に角、大輔時代でせう、その頃の文部省の建物は三十坪ばかりの平家の家であつて、それを二つに區切つて三寸角か四寸角位の格子がざうつと嵌つて居つて、その奥に寺小屋のやうな机が一脚あつて、其處へ大臣が

ばならぬかといふことの指針にもなるわけでありまして、さういふことに就いては皆様からお聴きすることがなければ遂に分らないでしまふやうなことが随分あるのではないかとと思ひます。それで今夕は一つ練をお脱ぎになられて、打融けた氣持で從來の文部省のことに就いて存分にお話を承りたい。さうして皆様から何ふ話は、吾々だけでお聴きするのも惜しいやうな氣がしますので、之を文部時報に登載をして、世間一般にも一つ読んで貰ひたい、旁々次の時代の人々にも残して置きたいといふやうな氣持で居るわけでありまして。どうぞ一つ何十年かの昔に返つて、角ばらないでお話を願ひ、吾々を大いに御鞭撻を願ひたいと思ふのであります。今日は別に順序もなにも考へて居りませぬので、皆様の思ひつかれますままに、御自由に御話を戴きたいと思ひます。そのうちに次官も見えることと思ひますから、ぼつ／＼とお始めを願ひませう。

宮下 中々御期待に副ふやうなわけにいきませぬよ、私共は永いこと文部省に居つたのですけれども、肝腎な必要な所には與らない。

その時は文部卿ですが、文部卿が坐られて居る。さうして書類を持つて行く時には今の郵便局の窓口みたいなものがあつて、其處に書類を出して引下つたものです。それが後の記録掛の室であつて、詳しいことは寧ろ中村さんとか宮下さんなどが、御承知の筈です。

三、記録往復の今昔

中村 私は明治二十六年に宮下君と一緒にあつたと思ひますが、文書課の往復掛から記録係へ廻つたのです。二十六年には大臣が井上毅さんで次官が牧野伸顯さんであられて、報告掛長兼記録掛長は昨年か亡くなられた木村匡さんがやつて居られた。その頃やつと文部省記録文書規則とかなんといふものが出来て、その規則によつて文書を整理することになりました。井上大臣は前に法制局長官をなされたこともありまして、内閣のさういふ方面の整理を御擔當であつたやうでありますから、時折掛長に整理のことに就いてお話をあつたさうでございます。私はその下で文書の整理をしたのでありまして、何時どの様な書

二、昔の文部省

ただ下の方に居つて書類をあつちこつち持ち歩いてたりした位のことです。唯或る人についてどういふことがあつたとか、斯ういふことを大臣が言はれたといふやうな位のことには偶には少しはあるかも知れませぬがね。

有光 さういふことがよいのではないですか。文部省の骨組は分るけれども、それに肉をつけたりする血の通つた所を何ふがよいのではないかと思ひます。

有光 さて文部省は昔から今の外國語學校の所に在つたのです。

宮下 さうです。

西 あそこになつた前は何處になつたのですか。

森田 その前は神田の御玉ヶ池です。それは佐原さんの方が御承知だと思ふ。文部省の最初の成立は大學の中でして大學の事務室だつたのです。それですから、大學が御玉ヶ池に在つて、その事務室が段々膨張して文部省になつたといふことです。

野村 佐原さんは文部省が何處になつた時か

文部省今昔座談會

類が必要とされても、すぐにそれを出すことが出来るやうにと苦心したものです。書類には件名をつけて整理したのですが、一つの書類でも幾通りもの件名をつけて置きませんと、引き出すことが出来ませんので、色々と考えました。

宮下 兎に角中村君は記録整理に就いては非常な功勞者です。その代り頗る嚴格であつた、嚴格で悪く言はれるのは仕方がない、悪く言ふのが間違つて居るのです。松村茂助といふ人の文書課長の時に書類の扱ひ方を變へたのです、それまでは各局課に受付けがあつたが、それを廢して私の方で皆やることにした。以前は、面白いことには、書類を大臣名と局長名、課長名とに依つて區別し、大臣名は我々の文書課の方で淨書する、局長の方は局課でやるのです。それでいろ／＼不便であつたので各局課のものも一切文書課でやることに纏めたのであります。その纏める時に松本さんが居られて、それは非常に骨が折れて考へものではないかといふことであつたが、文書課長が松村さんで、此の人が蠻的な人で、斯ういふ風にしろと言はれるので、暫く

ゐるところが文書課の方は特別の事業を持たない、そこで人を増さぬのだらうと思ふ。人を増す所の理由が中々立つまい。併し件數が増加するし、事件の内容が増加するし、一件の書類でも書くことが多くなるし、是は矢張り文書課へ人を入れる必要がありますな。

四、大臣に招かる

宮下 我々が直接大臣に會つたのは、西園寺さんが新任の時に一々呼ばれて、お前は何をして居るかといふことを聴かれたことがありました、それ位です。外の人は天長節か紀元節の時に全部判任官が並びまして、一人が總代として判任官一同を代表して今日の嘉辰を祝するといふことを申上げるのです、さうすると大臣が帽子を片手に取つて、是から參内して言上するであらうといふ話なんです。それ位のもんですが、ところが西園寺さんはさうではない、一人々々呼ばれて、お前は何をして居るか仕事を聴かれて、斯ういふ風にやつたらどうか、ああいふ風にやつたらどうかといふことを言はれるのです。そのとき私の答辯が長くなつたので、竹越さんが秘書官

文部省今昔座談會

考へて見ようといふことになつた。其の時の次官が久保田謙さんです。久保田さんが各局課と相談して、話を纏めたといふことであつた。それで松村さんが、私はやる積りだが君はどうだと言ふから、私はやる積りだと言つたら、それではやらうといふのでやることになつた。その時には私も困つたです、各局課の受付掛は皆私の方に持つて來たが、帳面を新に拵へ淨書をすべてやる、課印までも保管する、秘書課長と大臣、次官の印はさうでないが、あとは皆文書課長が保管するやうになつたので忙しかつた、以來さうやつて居りましたが、この頃は又變つて來ましたね、どこでも局長名の文書の淨書はその局課でやるやうですね。

有光 事務を敏速にするといふ意味でやつて居ります。

宮下 文書課で全部淨書をやるとすれば人も要るし、手數でせう、然し今まで巧くやつて來たのが元へ還つてしまつたのだから、局課では淨書する人が大分殖えたよ、寧ろ往復掛の方が微々たるものになつてしまつたですな。つまり前は發送、淨書といふことはすつ

で、私が喋つて居るのに次の者と呼んだ、それで僕の言ふことが徹底しなかつた、癢に障つてね……その後一木さんが文部大臣の時初めて判任官が招ばれたのです。判任官一同が招ばれたのは一木さんが初めて、それ以來大臣が必ず一回は招ぶやうになつた。

柴沼 官邸にお招びになつたのですか。

宮下 官邸にです。その時は戦争の時で酒は出なかつた。其の時には私が總代で挨拶をすることになつた。

西 高田早苗さんが宴會をやつたね。

宮下 高田さんもやられたし岡田さんもやられたし、あとは例になつて皆大臣は一回づゝ招ぶやうになつた。

稲葉 鎌田さんが大臣官舎で宴會をやりましたね。

五、文部省の内藤鳴雪

野村 宮下さん、内藤鳴雪時分にはおいでになつたのでせう。

宮下 え。

柴沼 内藤さんは何をして居られたのです。その時分には、伊藤内閣が出來た時に

かり往復掛で以て掌握してゐた、又その方が捗がいくのです。それが今は皆局課で淨書して印を押して貰ふ所を見て居るのですけれども、あれはをかしいと思ふのです、前の規則は變つては居らないのでせう。

柴沼 それは宮下さんの仰しやる通り官房……秘書課もさうですが、或る事業が新たに出来る場合は官房にも人を増して行かなければならぬ。所が最近官房三課とも事務が非常に膨脹して居つて人がそれに伴つて殖えてゐない。豫算の制振りが悪いのです。どうもその邊が巧く行きませぬ。併し一面吾々……私は昭和の初めに文部省に入つたのですけれども、其の頃の文書課長は次官の前に出て説明が出來た。私が文部省へ來た初め頃は大臣の所に何つた時にも文書課長が説明して居るのを聴いた。併し今日は各局課の書類の内容を文書課長が説明することは、不可能だと思ふ。法律に關することは他の所で申し上げますが、一般に事務が悉く膨脹して來て文書課長が直接手が着けられない程度まで殖えて居るのではないかと思ふ。

船越 各局課は、事務が殖えれば人員が殖え

官房には四課といふものを必ず置いた。秘書、往復、報告、記録、此の四つで、其の時は内藤さんが往復課長で高等官です。その時に私が入つた、だから中村君は鳴雪先生を能く知つて居る。

野村 その頃は役人であつて盛んに俳句をやつて居つたのですか。

宮下 いややらない。あれは後です。それから段々參事官になつて、普通事務局の方に行かれて辭められた、それであの……常盤會と言つたかね中村さん。

中村 え。

宮下 さういふものがあつたのです。松山の舊藩士の居る……其處を鳴雪先生が管理して居つた、その中に子規だとか碧梧桐とかいふ者が居つた、なんでも先生は非常に識論家であつたさうだけれども、子規に對して俳句のことだといふと一言も言はなかつたといふのです、子規といふ男は内藤先生だらうが誰だらうが構はない、随分無茶なことを言ふ、それでゐて子規の家では内藤さんだけに餘りひどいことを言つてはいけなと言つて居つたさうです。

柴沼 年配は子規より上だつたのですか。

宮下 それは上です。私などよりずうつと上ですから……、その後私も「日本人」へ俳句を出しましたよ。私は、俳句を澤山はやらないが、内藤さんが去つた後で少しやつた、さうしたら、私の名前を先生に知られたことがある。それが爲に取つて貰つたわけではないけれども……。

野村 あなたの號はなんといふのですか。

宮下 無濁、僕は實際濁つてゐない積りなんです。

六、直轄學校の増設

有光 西さんの居られる時に直轄學校の増設擴張があつたのでせう。

西 あつたのです。

有光 随分お骨折になつたのでせう。

西 専門學務局に居つた時分だが、あの時は高等學校も殖えたが實業專門學校が殖えることが多かつた。それで高等學校の豫算を編成するといふやうなことはやりましたね。大體十八萬圓位ないといけないというて……。

有光 仲田さんに伺ひますけれども、中橋さ

ん時分に學校を建てたのでせう。

仲田 さうです。あの時分は建築課で全部豫算を組んだのです。さうして局へ廻して局から出したわけですが、その當時豫算が通つたので大變仕事に忙しかつた。この頃は皆會計課でやつて居りますけれども、前の高等諸學校増設擴張といふのは全部建築課の方で豫算を組んだわけです。その時分は物價は安かつたし大變仕事に忙しかつた。然しその時分に大分豫算を削られた。その頃實業學務局に居られました某君が、こんなに多額ではないからと、所が自分が今度學校長になつて行つて見るとどうしても豫算が足りない、こんなことでは仕方がないというて文句を言つて來た。そこで、けれどもあなたが豫算を組む時に減らしたのではないですかと申しましたら、どうも困つたと言つて居られたですよ。

柴沼 増設擴張の時分は豫算は餘つたのではないですか。

仲田 初めの頃即ち中橋大臣の時分には安かつたが、終ひには高くなりました。最後の横濱高等工業學校の出来る時は大正十年頃ですけ

れども、その時分は随分高くなつて、木造の平家建てで水力實驗室などは一坪三百圓から四百圓位掛りました。今はそれ位の値段は當り前でせうけれども、その時分としては非常に高かつたのです。

柴沼 最近では別ですね。

有光 建築課の豫算が一番膨脹したのはそれ位でした。

仲田 一年に一番多く使つたのが二千五百萬圓、只今では豫算が大分減りまして多い年が八百萬圓から千萬圓ばかりです。

西 多かつたのは中橋さんの大擴張の時ですか。

仲田 それと大震災の時が多かつたです。御承知でせうがあの時分には震災復舊に二三千萬圓使つたものです。その時には豫算掛の方から私の方は窘められたのです。

野村 中橋さんの直轄學校の増設擴張費は残らずで六千萬圓だつた筈ですね。

仲田 さうです。後から増額になつた。御下賜金があつたりなどして段々多くなつたのです。

野村 丁度吾々の方で發起して、海軍省へ交

渉し、軍艦陸奥が出来た時に栗屋次官なども行つて見學した。其の時にこの軍艦の費用が六千萬圓だといふことを聞いて、栗屋さんが直轄學校の増設擴張費と略々同じだといふ話をしたのです。

仲田 それが段々追加々が出来て、結局八千萬圓位になつたのです。

西 あの當時は寄附といふのは相當あつたのですか。

仲田 それは土地と現金で政府へ一度寄附して、一般會計へ入れまして、政府豫算として出したのです。

柴沼 今はそれが出来ないのです。現物寄附でないと學校は出来ない。その時分は金さへあれば世話はなかつたけれども、今はさういふことは減多に出来ませぬ。

七、省内人員の今昔

西 柴沼さん、今會計に全體で何人位居るでせうか。

柴沼 現在雇員以上で百六十五人許り居ります。その邊ちよつと動いて居りますから正確なことは申し上げられないが、百六十五人よ

り減ることは餘りありません。

西 僕は會計課に明治三十五年から三十九年位まで置かれたましたが、その時分は四十人位居りましたか。

仲田 あの時分は豫算掛が三人でしたな。

野村 私が入つたのが大正五年ですが、その時には判任官の定員が七十五人だつた。その代り人心は善良でしたな、草履を幾日下駄箱に脱いで置いても無くならない。ところが第一次世界大戰後は草履を一日も置いたら無くなつてしまふ。矢張り戦争でそれだけ人心に影響があつたのでございませうかね。

西 現在百六十五人ですか、もつと多いやうな気がしますけれども……。

柴沼 傭人を入れると大勢ですが、雇員以上では百六十五人です。

船越 文書課は何人です。

有光 六十人位。

西 専門局はどれ位です。百人位居りますか。

有光 八十人位です。

西 私は専門局には四十年頃から大正七年まで居つたのですけれども、その間専門局は二

十人位でしたな。さうしてその頃は今の學務局といふのを第一課といひ、學藝課といふのを第二課といひましたね。

柴沼 三課まであつたのではないですか。

西 三課あつたこともありましたが、三課合しても人数は二十人位のものでせう。

船越 文部省はまだ人員が少い。局といつても他の省の一つの課位の人員しかゐない。兎に角陣容が弱いです。

柴沼 それは昨年私の方で減員のことと統計を取りましたら、各省中で十一番目です各局課當りの人員が……。それから課長以上を除いて事務官以下を比べて見ると、外の省から見たら比較にならぬ程少い。

船越 兎に角他の農林とか遞信とか鐵道とかいふ省に較べると一課の人員位しか人員がゐない。

柴沼 それは厚生省などは書記官だけで六十何人居りますよ、商工省の如きは八十何人居ります。それであるから次官が課長の顔を知らぬといふやうな現象が出て居るのです。文部省では事務官に至るまで次官は全部知つて居ります。屬官でもちよつと古い人は全部次

官は御承知だ。他の省は近頃さういかないやうな事情になつて来た。それですから比へますと文部省はちつとも人が殖えてゐないといふことになりませぬ。

宮下 随分多いやうに思ふがね。

森田 だが、私の感じを申すと不足だと思ふ。

(此の時菊池次官、田中秘書課長出席)

船越 教育の事は長く慣れさうして深く察しなければならぬ、それには、色々な事を研究し、考へた人が必要なのですな、そこで長く長くことが矢張り良いのです。ところが長く長くことが出来ぬ。それは定員が少いものだから餘裕が出来ない。色々な關係があるだらうがさういふことも大きい原因だらうと思ふ。それで囑託を置いて居ること……僕も囑託でかきしいが、最も多いさうです文部省は……、一面本官の人の少いことが各省で第一だと思ひます。

森田 兎に角私のはいつた時には屬官が十一人だつた

船越 普通學務局は大正五六年頃ちよつと覗いて見た時にどれ位居つたかといふと四人か

……、大臣に代つて仕事を致しましうのですから、唯しく言ふけれども、中村が唯まじいのはございませぬといふことを申上げたのです。

菊池 僕は秘書課長をして居つたが、それは中村君がずうつと書類を見て持つて來られるのには一々頭が下つたね、よく是が発見出來るといふ位な書類の間違ひを発見する、まるで神様のやうなんだ、「是は宜しうございませぬか」と言つて來られるとびくつとしてしまふ。それは又一字一劃まで、中村君さへ通れば絶対に間違はない、實に偉いものだ、その代り外の掛長は煙たがつて居るけれども……、此處を通さなければならぬ、中村君さへ通せば絶対安全だ、苟も上奏するものだから間違があつてはいけない、洵に天下の寶です。

中村 お褒め下さいますけれども、秘書課長は非常にお忙しくて多い書類を御覧になるし、お客さんが多いので、書類を能く見て居られる暇がないのです。

菊池 僕は恰好を見るだけ、この人は一字一劃びたつと發見してしまふ、いつかこつちから發見してしつて返してやらうと思ふけれ

文部省今昔座談會

五人しかゐない。

森田 それで私達は雇員政治と申したのです……(笑聲)。雇員が相當の仕事をした。

船越 又立派な人が雇員で入つて居る。

西 今でも雇員が本官の二倍以上居りは致しませぬか、有光さん。

有光 二倍以上居ります。

西 仲田さん建築課はあなたが入つてから今日までどういふやうに變つたですか。

仲田 建築課は事業の状況に依つて大變殖えることも減ることもございませぬ。

西 今でも餘り殖えてはゐないですか。

仲田 さうですね、高等諸學校増設擴張時には、一時は一課に三百人位居りましたね。今は殆ど百人程度です。

西 百人位は居るですかね。

仲田 居ります。地方に行つて居りますから、一體事業の狀態に依つて人を増減して行くといふことが、一番難かしいのでありまして、中々今のやうな時代では良い人を得ることが出來ないのでございませぬ。

八、恐かつた中村君

どもども無い。逆も敵はぬ。

中村 記録掛は實際起案はしなかつたのでございませぬから……。さうして前申上げるやうに中々お忙がしいので、大臣が上奏されるものに間違があつて、それも上の方から言はれるならば宜しいですけれども、他の役所の自分と同様な屬官などから言はれると大臣の名に拘る、さういふことがないやうにしたいといふのが私の考で、前申上げたやうに中村が恐いのはございませぬと申上げるのです。

菊池 その代り内閣の印刷局では、活字はどうぞ餘り唯しく言はずに、いゝ加減な所で我慢して呉れと言ふ、詰り戸籍謄本とかंनाとかを土臺にして來ると、そんな字は無いことがある、ところがその人に取つてはそれが本當なんだから、その人を表すにはそれでなければならぬ、関係關係では其の通りやらなければならぬ、併し其の通りやると活字を括へなければならぬ、活字をそれが爲に括へなければならぬのがこんなにある、之をなんとか簡略に出來ませぬかといふのを中村君が頑張つて承知しないこともあつた。近頃の書類には非常に拙い字があり、字だけ見てこれでは

菊池 中村君はみんなが恐がつたね。

中村 恐いと申しますが、なにも中村自身が恐かつたのではありません。役が恐かつたのでせう。伊東さんが課長になられた頃かと思ひます。其の時伊東さんが御披露下さいましたが、最近地方で中村金藏といふのはまだ文部省に居りますかね、非常に恐い人でしたねと言はれたといふ、そこで、私は申上げたのです、それは中村金藏が恐いのではない、私が地方へ注意したので、彼などの場合に送る履歴書に不備なものがある。それで前は皆文部省で整理して出された、ところが数が多くなつて居りますからそんなことをしてゐたら定期に出すことが出來ない。それで私は役所が濟んでから、鉛筆で欄外へ斯ういふやうに書いてお出しなさいというて出すと、さういふことが非常によく、今まで文部省から斯ういふことを言つて來ないのに君がやつて呉れるので大變よい、部長、知事にさういふことを申上げようと言ふ、尙ほ本省の主任が言つて來たらそれより確かなことはないではないか、向ふの言つて來た通り書いて送らうといふことで以て送つて來る所もある。さう

いかと不安心なのがある。それで僕は近頃時々注意するのです。あれは一つ役人再教育をやらなければいかぬね。

野村 次官の前でさういふことを言ふのはどうかと思ふが、本當に近頃の書類には間違が多くなつた。

田中 この間各局の主任屬の連中が集つたのですが、さういふ話が出る毎に新しく入つた人の再教育のことが問題になる、又自分達でもやらなければならぬ、さういふことをやらうと計畫して居るのです。

九、兵式體操で水中行進

菊池 僕が中村君にお尋ねしたいことは、去年の六月の「帝國教育」でしたか、「歴代文部大臣の思出物語」といふものが出て居つた、そして中村君の話が出て居る。それで非常に面白いと思つたのは、森文部大臣の時の話ですが、なんでも中村君が、文部大臣が地方に學事視察に出られた時に附いて行つたのです、御承知のやうに森さんは今の鍛鍊教育に非常に熱心で、あの人の提唱に依つて今日の種が時かれたやうなものです。なんでもその

時には愛知縣下の某學校を視察した、さうすると其の學校の職員、生徒一同が非常に感激して、さうして兵式體操をやつたのが非常に良く出来た、非常に勇しく、遂に勢餘つて川の中まで飛込んだといふ。雑誌には愛知縣下の某學校と書かれてある、それを一つ僕は中村君に聴きたいのだ。それは僕に因縁があるのです。僕が生れて教育を受けたのが愛知縣海部郡、津島といふ町に尋常小學と高等小學と二つ在った。僕は小さい時から學校へ連れて行つては所謂調練を見て居つて、是は實に面白いものだ、實に勇ましいものだと思つた。丁度日清戦争の前後で非常にさういふ教練の熱が盛んなのです、そこで早く大きくなつて斯ういふ學校に入りたいと思つて居るうちに、大きくなつて尋常小學へ入り高等小學へ入つた。所が尋常科の方と高等科の方とは別になつて居つて、高等小學へ入ると制帽があつてちやんと徽章がある。その徽章が「森」といふ徽章なんです、今でも忘れないうが、入つた時に校長から「此の學校は」といふ曰く因縁の話があつて、それでお前達の冠つて居る帽子の「森」といふのは是は只

ならぬ徽章だ、昔森文部大臣といふ方から賜つた徽章なんだ、それには斯ういふことがあつた。以前森文部大臣が當校へ、視察に來られて、木曾川の分流で犀川といふのがある。その河原で兵式教練をお目に掛けた、さうした所が非常に御氣に召して……校長初め非常な意氣込で一生懸命にやつた、さうして校長自分から號令を掛けた、ところが校長のことだからまだ其の頃體操などは餘りやつてゐないので號令なども巧くはいかない、それで號令を掛けて「進め！」と言つたけれども何處で「止れ」と言つたらよいか、又「廻れ右」といふやうな號令は知らなかつたのでせう。「進め！」はやつたけれども何時までたつても「止れ」も何も言はない、そこで生徒は河原を蕩地に行つたものだから川の中へ入つてしまつた。その川の中へ入つた頃やつと「止れ」といふ號令が出て來たのだね……(笑聲)。さういふことがあつた、さうしたら後で森文部大臣から、校長ちよつと來いと言はれたので、校長は吃驚した。あゝいふことをやつてしまつて飛んでもないことをした、誠になるのだからといふわけで、恐るゝ大臣の前に何候し

た。さうしたら森さんが、今日の教練は素晴らしい、もう技能の上手下手ではない、あの意氣込でなければいけない。自分は方々見て歩いてけれども是は非常に良い、この勢でやれといふことで非常に褒められて、その因縁でそれを記念する爲に然らば斯ういふことをお許し願ひたいといふことで「森」といふ徽章が出来たのである。それで「森」といふ徽章を附けた以上は、この學校は斯ういふ積りで出来て居るから確りやらなければいけない、斯う言はれたが、さういふことを私等の子供の時からはれて居るので。私は高等小學は卒業しなかつた、一年位ゐて東京へ來てしまつた。初めは東京へ來ても今までの帽子を冠つて居つた、をかした帽子なんです、黒い帽子で周圍に黄色い筋が入つて居るのですけれども、その徽章が「森」でせう、それで得々として威張つて居つた。併し中學へ入學出來たからその帽子は僕は脱いでしまつたけれども、それ以來「森」といふ徽章については非常に關心を持つて居つた。ところが去年「帝國教育」の雑誌を見たところが、中村君の話に愛知縣下の某學校へ行つて是々とある

が、某學校だけで何處か分らない、それではは一遍調べて見る必要があるぞといふわけで、僕は田舎の小學校の同期の者に手紙を出した、實は斯ういふ雑誌に斯ういふことが出て居る、是は恐らく吾々の學校であるけれども、何かその當時の記録は無いか、文献はないか調べて呉れ、斯ういふことを書いて、僕等の友達に田舎で小學校や女學校の先生をやつて居る、それを送つてやつたら、是は面白い、吾々も始終そのことを聞いて居つたといふわけで、津島の町に町史といふのがある、それを調べて見たら、矢張りさういふことが書いてあるが、尚ほその當時の人で生きて居る人があるかも知れないから早速探して見よう、生存して居るというてもえらい年だらうと思ふが分つたならばそれを尙ほ知らせませうといふことであつた。

一〇 森文相の想ひ出

中村 それでは森さんに就いては外にもありますからちよつと申し上げます。森さんは現在の内閣制度の初代の文部大臣であられて、さうして神田に居られた時分に、是は復聞です

文部省今昔座談會

から實際どうか知れませぬけれども、大臣閣下は、今日御出省になりますでせうかといふて、取次かなんかであるかも知れないが、森さんに申し上げました。さうしたら、何か大臣が出省しなければならぬやうな大事件があるかと言はれたといふことを、聞いて居ります。が、何んでも官邸に居られて殆ど出省はされなかつたらしいです。篠田利英さんが女子高等師範學校の教授として海外留學を命ぜられて、御挨拶少々研究事項を伺ひに出た、さうしたら時の秘書官が貴族院議員の木場貞長さんで、どういふことだ、是々です、それでは大臣にお話申し上げようといふことで、森文部大臣のお部屋に呼ばれてお話を申し上げた、さうすると大臣が、僕は歸朝以來方々の役所を歴訪して勤務振りその他を見たが、陸海軍は別問題だけれども、外の役所は呑氣なものだね、文部省へも無論行つた、文部省へ行つて見ると出勤時間に一人出て居つた、その人は茶を飲み煙草を喫つて居つて御用はしてゐなかつた。あれでは困るから今度海外留學生として行つたら、女子高等師範學校でもあるしするから、幼児からずうつと子供を育て上

げる所を見て來たらよからう。自分は文部省へ行つて感じたけれども、是々であるから斯うしろと言つても、あゝいふ年を取つた人を作り直すことは難かしいから、外國へ行つて幼少から仕上げることを見て來い、斯ういふことを話されたさうです。

稻葉 私は森さんは大臣としては直接お目に掛つて居らないのですが、明治十八年に大阪の師範學校に在學して居りました。その時に森さんが文部省御用掛といふ名義で學事視察にいらつしやいました。それで吾々は兵式體操をして御覽に入れた。その時頭に残つて居るのは、中々丈の高い恰幅のよい立派なお方でございました。けれども私などはまだ學生であつたからして、文部省御用掛といふのだからえらいお方には違ひないが、餘りえらいといふやうな感じはなかつたのです。その後東京へお歸りになつて間もなく文部大臣にお成りになつた。それで初めて中々えらいお方であると感じたのです。それから其の後東京に來て文部省へ奉職して大臣官房に勤めたり致しまして、森さんが外國から歸つて學制を制定するについて中々骨を折られたといふ

やうなことを承つたのです。その時の大臣としては今の大臣のやうに毎日御出勤はなかつた、普段は官舎に居られてたまにしか本省にもお出ましにならなかつたけれども、本省に出入れぬとしたところが非常に御熱心にやられたといふことを聴きまして大層感じて居りましたやうな次第であるのです。

宮下 森さんは文部省へ少しも出て来られない。一月に二回位出て来ては高等官を集めて訓示をする。又それが長いので高等官仲間交代り番こに席を外して来ては、まだかなあと云つて居つたといふことを聞いて居ります。

野村 私は木場さんに伺つたのですが、明治十九年の學校令の制定については、森さんが自分で要綱を書かれたのを小牧昌業と木場貞長と服部一三、この三人に言ひつけて、森文相自ら起草した學校令案を出して示し、趣旨を動かしてはいけない、條文だけを整理せよと命ぜられたので、それで三人が赤坂のなんとか言ふ家に立籠つて、そこで條文を整理して持つて行つた。大臣はこれを直されて直ちに閣議にかけて出来たのださうです。それで草案が少しも残つてゐないさうです。

らつちやつて、その時に生徒を一堂に集めて話をせられた。その時にちよつと御顔を拜しただけで、こちらに参りましてからは無論……

宮下 文部大臣の時は、弱つて居られたのです。

菊池 弱つて居られたけれども命がけです。文政史上に於ては偉い人ですね。文政の爲にこの人を日本に下したと言はれる位で、矢張り文政の上に於ては特筆大書すべき人です。

稲葉 教育勅語の渙發についても井上さんが深い關係を持たれたといふのではないですか。

菊池 その頃は法制局長官でしたが、元田さんやなんかと色々御苦心になつたのでせうね。

稲葉 文章などとは大變お上手だつたらしい。**菊池** あの漢學者が實業教育の提唱をしたといふことは面白いですよ。是は忘れてならぬことです。前に大阪に行つて、あの當時大阪に何故工業學校を設置しないかと言はれました。大阪の工業學校設置論といふのは有名なものです。

文部省今昔座談會

菊池 その時分に江木さんが居られたのではないですか。参事官かなんか。

宮下 居られました。江木さんもこれに加つたのでせう。

船越 明治十八年に大木喬任さんが文部卿、森さんは文部省御用掛で、その時に盛んに學校の視察をされて、埼玉縣の師範學校も視察された。今日師範學校に在る「順良、信愛、威重」あれは文部大臣に成られてからお書きになつたものであるが、その前に御用掛の時に演説して居られる。その時の記録が残つて居りますね。

宮下 埼玉縣の師範學校に行かれた時に、女生徒が茶の湯かなんかで以て静々とお茶を持つて行つた所が、森さんは疊の上に大胡座をかいて居つて、愚圖々々しないで早く持つて来いと言つたさうだ。

菊池 兎に角森さんは傑出した人でした。江木さんなどはこの森文相から叩込まれたわけ、順良、信愛、威重、是はなんで出来て居るか知つて居るか第一に聴かれたものです。實はあれを少し變へようとして僕等が筆を入れようとしたら、江木さんは御機嫌が悪

稲葉 中々先見の明があつたのですね。

菊池 知識のみで實力を有せなかつたらどうするといふ考へでした。今日の實力養成だ。

稲葉 それからあの方が教育に、熱心なことは、丁度御病氣であつたので或る人が御養生なされなければいけないといふことを警告したさうです。さうすると、いや俺はさうではない。病氣で永く生きることは出来ないだらう、それだから生きて居る間に一つ全力を擧げて國家の爲に盡して置かなければならぬといふことを仰しやつたさうですね。そこらは餘程常人と違つて居ります。

菊池 あの人は一頃、あの當時の議會へ血を吐く思ひで出掛けて行つて實業教育向上の要を説明したので、すっかり議會で感服したのです。命がけでやつた。この豫算は是では足らぬ。もつと増さねばならぬといふことを強調した。あれが、今日の國庫補助の元なんです。あれからずうつと實業教育が旺んなくなつた。それまでは微々たるものです。僕は一度牧野伸顯さんに聴いたことがある。その頃は實業學校は數へる程しかない。學校長會議を

くつてえらい説法を喰つたものです。文政審議會で師範教育令改正の相談があつた時にあれを變へたのです。案を拵へて樞密院まで行つてその儘になつて居る。今頃順良、信愛、威重なんといふことを書いて、どういふ意味ですかと樞密院で聴かれる譯でした。森さんの考は今日の國防國家觀念ですね、之を教育に入れなければいけないといふ遠大の考があつた。

野村 兵式體操を尊重したことなんかドイツに似て居りますね、ドイツ仕込ではなかつたのでせうか。

菊池 さういふことは感じて来られたと思ふのです。それで色々批評もあるだらうが、森文相は偉い方だと思ひます。特筆すべき人物ですね。

一一、井上文相の業績

菊池 どなたか明治二十六年頃になりますかな、井上毅といふ文部大臣、あの毅とふ字は「こはし」と讀むのださうですね、あの方を御存知の方はありませぬか。

稲葉 私は矢張り大阪師範學校へ御視察にい

やつても三四人位しか寄らなかつたといふことで、今日とは隔世の觀がある。

一二、文部大輔田中不二麿

海後 文部大臣が出来ます以前の太政官時代では文部大輔田中不二麿さんの明治六年から十三年迄の功績は非常に大きいと思ひます。十二年に教育令が世の中の不平を買つた爲に司法卿となつて文教行政を去つたけれども、明治四年岩倉公と一緒にヨーロッパを廻りまして、學制發布後の日本の教育界に遺した功績といふものは非常に大きいと思ひます。森さん以前に於いて、自ら教育の色々な方針を立ててどん／＼やらうとしたのは田中さんではないかと思ふ、ですから學制發布の時の大木文部卿は先づ第一に考へなければならぬけれども、大木さんから田中さん、それから森文部大臣、古いところでは斯の様な順序ではないかと思ひます。ですから田中不二麿さんの功績を特に顯彰して文教行政上の仕事を明かにすることは、私は非常に意義あることであると思ひます。田中文部大輔の方策を見ると確に卓見が少くないのです。

船越 田中文部大輔は明治四年岩倉さんに附いて洋行されて歸つてから「理事功程」を著されました。自分で考へられたことを書かれたのでせう。あれは大部なものですね。

野村 文部省の年報に、載つて居るのを見ると、田中さんは明治六年に義務教育を施行しなければいかぬといふことを言つて居ります。又圖書館を設立する必要がある、或は學士院を作る必要がある。それから今の教育會でせうけれども教育國會を作る必要があるといふやうに、學校以外の文教行政についての企畫もしてこれを毎回上奏して居りますね。

菊池 そんな古い年報があるかね。

野村 あります。三宅秀博士がお持ちで、震災でお困りでせうというて寄贈して呉れたのです。

中村 もう一言申上げると、いまのお話の大輔田中不二麿さんのその時分の舊書類を整理して居ります際に、氣付いたことであります。が、風教の官府である文部省経費定額金貳百萬圓と定められ、其の後減額若くは復舊せられ或る年の如きは百萬圓に近い約九拾萬圓の減少と云ふ事がありまして、其の時分の事に

てもありましたか、官吏の降等若くは御用掛等に採用せられましたなど減俸の事が在りましたが、數年ならずして前官に任用されました事を見ました、誠に何と云ふ有難き思召であつたか是れ全く文部省事務を主掌して居られました田中不二麿文部大輔の下級官吏の實情を憐察處理せられました事と深く肝に銘じ今以て記憶して居る事で在ります。

一三、松浦文相のこと

中村 前内閣の文部大臣で居られた松浦さんの九州帝國大學時代について、亡くなつた林事務官から次のことを承りました。それは彼處には前から總長の乗られる自動車があるに拘らず、自動車にお乗りがなくて、福岡といふ所は電車があつて、電車の中で切符を買ふと割引しない、外で買ふと割引する。それで松浦先生はお宅を出られて或る所まではおひるひで行かれて、若い人は皆停留所附近で切符を買つて居るのですが、買手の無いやうな、賣れ方の少いやうな皺くちや婆さん、爺さんの所へ行つてお買ひになつて、さうして電車で終點まで御乗りになつて、あと大學ま

には、一日七十枚づゝ原稿を書かれたさうです。普通の人は二、三十枚書くと手が痛くなるものですね。

柴沼 あれは御自分で筆をお執りになつたんですか。

森田 全部御自分で書きになつたのです。

野村 大臣などに成られる方は精力絶倫ですね。

一四、醫術試験と高校総合試験

西 私は専門局に居りましたから、現在の専門局と違つた所を申上げてみたいと思ひます。違ふというても、現在の人数と比較して非常に少い點も違ひますが、その他私共は明治四十年頃でありましたけれども、その前から醫術開業試験といふものを内務省から移して、それを専門局でやつた、その時に醫術開業試験、齒科醫術開業試験と兩方やりまして、全國の志願者がまあ四、五千人あつたでせうか、東京ばかりでは逆もやれないからといふので、長崎、大阪、熊本といふやうな所へ出張してやつたことがありました。大分人数が多い爲に苦勞をしたのであります。

でお歩きになるといふ。毎日それをなさつて居られて、評議員會などの時に事務官も残つて居つて、今日は自動車を出して居りますからお乗り下さいといふと、それでは一緒に乗つて行かうではないかというて乗られる。さうしてお宅がなんでも事務官の官舎よりも手前ださうでありまして、その邊に來ると、もう僕は此處で降りるから君は官舎まで乗つて行きなさいと言はれたといふことを話されました。又私は長く官舎に居りましたので、高等官からお電話下さることが度々ありましたのですけれども、外のお方は大抵女中さんや書生さんなんかで、御自分がお出にならなからいゝけれども、松浦さんは御自分でお出になつて居られるのであるから、家内の者にも注意しておき自分も亦直ぐ行くことにしておきました。まあさういふ御方でありましたから文部大臣までお成りになりましたので、又文部省御在任中は御評判が好かつたことと推察申上げて居ります。

柴沼 松浦さんについてはこの間原君に聴きましたが、或る日夕方六時頃になつて、ひよつと廊下を見ると松浦さんが秘書課の外の廊

下を歩いて居られるので、大臣は何か困つて居られるなと思つて、何ですかと何ふ、いや君に言ふことではないとおつしやる。お歸りになる自動車でせうと申上げると、いや君に言ふことではない、小使さんに言ふことだ、とお言葉だ、それでは私が申付けますよと申上げた所が、君に言ふことではないといつて恐縮したといふ話をして居りました、特別の方でしたね。

中村 秘書課へ廻つてから時折電話がかゝつて、都合がついたら來て呉れといふので何ふと、二三のお客が居られて、是々のことをお尋ねにいらつしやつたのですが、記録はあるかどうかと問はれたので、部屋へ歸つて調べた参りますと申上げると、お客さんに左様承知して下さいと一々斷つて居られる。又局長としての上申書を自分でお書きになつて、さうして態々ではないでせう、秘書課へおいでになつて課長に話された序のことだつたかも知れませぬけれども、是は斯うだといつて御自分が私に渡して居られましたこともあり

野村 松浦さんが教育制度史を著はされた時

常な難問題であつた、私共が入つた頃は高等學校は六校しかなかった。それが名古屋に出来て八校になつた。その八高等學校長の會議には始終参りましたので伺ひましたが、高等學校の卒業生を大學へ入らすのも骨だが、高等學校の生徒を探るに就いても非常な問題があつたやうでありまして、その當時の校長酒井佐保さん、溝淵進馬さん、大島義倫さんなどが色々お話しになることも聽いて、學生についての苦心をお察しして居りました、ところが岡田さんが大臣になられた當時でございしますが、岡田さんがそれを三回位繰返されたかと思ひますけれども、色々お考へになつて、どうしても是は高等學校へ入學するのも順位で決めていかなくてはいかぬ、第一高等學校を志望して第二高等學校でも構はないといふのをその儘置いておくといふことはない、第一志望者だけ今までのやうに探つてしまへばそれは洵に榮かも知れないけれども、相當数の者が落ちてしまふ、第一高等學校を志望して居た人がそこに入れないとも、第二志望で第三高等學校へは入れる第二高等學校ならば入れるといふ人が、何處にも入れぬと

官舎においてになつた時でも、時に依ると電燈はどれ位要るか、又瓦斯はどの位消費するかといふやうなことをお尋ねになつて、無駄に費さないやうになさいと仰しやる。又門燈などでも、その時分などは電燈が定額になつて居る、定額であるから畫點けたところが電燈料が多く要るといふわけではない、それでうかつかりと消さずして晝でもその儘になつて居ることがある、それを若し門をお入りになる時にお目についたら門衛に直ぐ御注意下さる。それから大臣室は御承知の通り二階であつて、會議は大抵下の食堂とか廣間で致します。それで大臣室を出られる時には御自分で瓦斯などをちゃんとお消しになります。それから就いても思ひを掛けられまして、御用の時にはお呼びになります、私共が参りますと、大臣室へ入りましてちよつと立止つて靜かになりましてから、斯ういふことはどうなつて居るか、或は之を斯ういふやうにせよ、斯う仰しやる。それで、もう靜かに止つてから靜かに言はれますので、それが頭に十分入る。ところが下情に通じない人は、お呼

文部省今昔座談會

いふことになるわけだから、之をどうしても成るべく上から順に探り、どうしても入れない者はよくいふやうな者だといふやうにしてやらなければならぬといふことに岡田大臣が改正されたやうに伺ひましたのです。

菊池 今の西君の話だが、綜合試験はどうして止めたのかね、手数の關係か……秘密洩れなんかあつたのではないか。

有光 印刷局の技術員から洩れたのですね。

西 それは私共の關係してゐない後のこととせうね。何年間やつたのですか。私は大正七年に京都に行つたから、それよりも後です。

有光 後です。

佐原 試験問題を……それは給仕をやつて居つた一番下の奴がやつた。

西 あれは醫術開業試験の問題です。

佐原 どうしても、金庫が開かないといつて、鍵を便所の中へ打つちやつて來てしまつた。

森田 あれは給仕がやつたのでね。盗む積りで電話も外してしまつてやつた。

西 試験問題を探したわけですね。

野村 誰か教唆した者があるのですね。

森田 どうだか分からなかつた。

西 それは醫術開業試験の時、醫術開業試験では包装して送つたのが秋田か山形で包装が破れて居つて、外から中が少し見えるから、是はいかぬといふので、やり直したこともあります。

一五、岡田文相の官邸生活

稲葉 私は文部省へ奉職をしてから一番長い間お仕へ申し、又感服致して居るのは岡田大臣であります。岡田さんは御承知の通り二度大臣に成られました、前後を通じて三年十ヶ月の間大臣として在任せられた、その外にも無論参事官、局長にも成られ、文部次官にも二度成られました、さういふことであつて私は外の人よりも岡田さんに接して居ることが餘程長かつたのでございます。岡田さんは報徳主義を非常に信じて居られました。御實家の御尊父時代から報徳の方を信じて居られた、それであるから財産が澤山有りまして物物は粗末にはしない、出来るだけ儉約するといふ主義で始終居られたやうでございます。

びになつて大臣室に入る、入つて足音が止らぬ先に、是々斯々といふやうな工合で、早口で、小さく仰せになることがある。さうすると、この用事は斯ういふことであらうかと思ふけれども、確かに分らないことがある。それを確かに分らぬというて問返すのは非常にこちらが恐縮する譯であります、さうかといつて場合に依つてはいふ加減に取扱ふことも出来ない場合もある。是は部下の者の苦心する所であつて上官の方などはさういふことを御氣付かない方もある、ところが岡田大臣にはさういふ所までも御注意下さつた。

それから或る時に判任官一同を岡田さんが大臣官舎に御招待になつたことがあります。その時にまあ色々な雑話もございましたが、後で一同にお話をされた。今晩は判任官一同を御招待をした、どうかすると人は判任官は條の下の方持だ、色々とは使はれ、努力しても一向表面に現はれない、高等官に唯使はれるところの條の下の方持で詰らぬものだ、斯ういふやうな感じを持つて居る者もあるけれども、それは大いに間違つたことである、役所の仕事の中でも判任官の調査といふことが

一番大切なことである。決して條の下で使はれる詰らぬ者だとかいふやうなことを思つてはいけないと吾々を訓戒されたこともございます。さういふやうな工合でありまして萬事に御注意下さつて、又下情にも通じて居られた。斯ういふことで私は大臣の中でも色々とお立派な人もございますけれども、岡田さんは次官として、又大臣として一番永らく御世話になり、接して居りましたから一層感じが深いのでございます。

○ 有光 それではまだ何ふことも随分残つて居るかと思ひますけれども、大體一順皆様のお話も伺ひましたし、時間も参りましたから、是でこの座談會を終ります。どうも長時間有難うございました。

×

×

×

ニ執モ轉任セリ

退職 長野縣公立小學校長市川雄一郎、同筆輪留、同甘利惟美、同山本武雄、同小林齊、同今井沖一、同等々力直泰、同宮崎司、同山田茂保、同牧内芳雄、同新井不二彦、同矢澤清志、同黒河内鐵、同村松正樹、同小林信、同高橋數馬、同藤井侃一郎、同市川幸雄、同吉澤庫美、同丸田美一、同中村茂喜、同永井久萬雄、同長尾重郎、同塩入久雄、同木村傳藏、同川久保伊助、同大久保武雄、同山上晋、同酒井四郎、同川又昂、同西山敏一、同小原福治、同林英、同下川甚吾、同小松直志、同伊藤泰輔、同松澤平一、同三澤孔文、福島縣公立小學校長菅野健、同吉田順猷、同岡儀三郎、同宮下喜佐次、同富塚繁重、同石川義光、同高田留治、同曾我傳吉、同三杉德松、同渡部利馬、同鈴木勘兵衛、同鈴木喜助、同安藤常衛、同篠山康、同標葉長治、同木村一、同田部兵庫、同渡邊德治、同堀東義衛、同渡部

第三郎、同吉田庄太郎、同安藤力、同柳沼德實、同志賀秀孝、同根本貞治、同前川三省、同渡邊直次郎、秋田縣公立小學校長荒谷武三郎、同指川正一、同田代富之助、同齋藤運吉、同杉原藤九郎、同達子勝藏、同蛸峨太一郎、同子吉武次、同佐藤修一、同古谷文三、同近丹、同武藏大介、同伊藤鐵藏、福井縣公立小學校長松山庫之助、同阿田哲夫、同山川忠三、同高山晋吉、同北島茂樹、同笹原正哉、同沙見市衛、同阿部金次郎、同大澤澤、同中出俊之、同渡邊覺治、同杉浦大藏、同池田幸雄、同松尾文作、同山端海一、同高石清治、同媛縣公立小學校長富永一嘉、同宮内通哲、同岡兼太郎、同岡本藤枝、同秋山助一郎、同寺川豫通、同渡邊直樹、同神野十七一、同兼頭繁藏、同越智勝美、同西山繁樹、同益田一雄、同阿部久平、同原島清、同仙波林三郎、同富久友一、同矢野大、同白石朝武、同五藤百太郎、同西本高一、同二關義清、同

田村彌内、同毛利角之助、福岡縣公立小學校長大屋九十九、同力丸健象、同笠間祐嘉、同古谷豐、同古賀新一、同高田實、同平塚俊雄、同三宅万藏、同田中英五郎、同市田正氏、同薄俊一、同天野久雄、同清水猛雄、同谷川惠吉、同石井久太、同渡邊義之助、同安部久次、同福永秀吉、同幸田又右衛門、同小林市助、同吉本良助、同松下瀧藏、同大内田茂吉、同金野三郎、同安東兼藏、同小川繁太、同登本壽三郎、同寺西猛郎、同碓井村夫、同東原平八、同門司傳四郎、同永尾國松、同大石圓、同中西虎吉、同松浦實太郎、同金子益治、本年三月三十一日執モ依リ退職ヲ命セラレタリ

死去 公立實業學校長兼教諭從五位勳六等村田喜一郎、八月十日卒去セリ

執筆者紹介

芝 萬 盛

前宮内省圖書寮編輯課長、本編輯後退官、公刊明治天皇御紀編輯委員會委員として専らその編修に従事

田 所 美 治

元文部次官、貴族院議員、教育審議會特別委員長

塚 原 政 次

廣島文理科大学長、文學博士

友 枝 高 彦

東京文理科大学名譽教授

棚 橋 源 太 郎

元東京博物館長、元文部省督學官

上 原 種 美

東京農業教育專門學校長、元文部省督學官

森 岡 常 藏

東京文理科大学名譽教授、前東京文理科大学長、元文部省督學官

下 村 壽 一

東京女子高等師範學校長、元文部省宗教局長

伯 爵 牧 野 伸 顯

元文部大臣

瀧 精 一

東京帝國大學名譽教授、國寶保存會委員、元重要美術品等調査委員會會長、文學博士

子爵田中阿歌聲

田中文部大輔の令嗣、理學博士

岩 垂 憲 德

文部省圖書局囑託、元辻文部次官秘書

木 場 貞 長

元文部次官、貴族院議員、法學博士

子爵井上匡四郎

井上文部大臣の令嗣、貴族院議員、工學博士

伯爵樺山愛輔

樺山文部大臣の令嗣、貴族院議員

伊 東 延 吉

國民精神文化研究所長、元文部次官、江木文部大臣當時の秘書官

關 屋 龍 吉

前國民精神文化研究所長、阿田文部大臣當時の秘書官

上 田 壽 吉

上田萬年博士(元專門學務局長)の令嗣、前文部大臣秘書官

相 澤 照 熙

教育評論家

發行所

東京市京橋區銀座四丁目一番地
帝國地方行政學會
配給元 日本出版配給株式會社
會員番號一一九五五四

禁無斷轉載

發行所 東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所 東京市牛込區西五軒町五十二番地
電話 牛込二九六六番

廣告料

昭和十六年七月九日印刷納本(第七三〇號)
昭和十六年七月十一日發行(本號二限り定價金六拾錢)
廣告料は一頁五拾圓二分ノ一頁參拾圓、四分ノ一頁拾八圓とす
掲載頁數は壹部毎に拾參頁を超ゆることを得ず
右文部省の御指定に依つたものです

定價表

一 部	金 貳 拾 錢	送料 共
一 一 月	金 六 拾 錢	送料 共
六 月	金 參 圓 六 拾 錢	送料 共
一 年	金 七 圓 貳 拾 錢	送料 共

●臨時増刊又は増大號發行の節は別に代
金申受けます

●御註文は總て前金に願ひます 前金切れ
の場合には送本いたしません

●臨時増刊又は増大號發行の節は別に代金申受けます
●御註文は總て前金に願ひます前金切れの場合には送本いたしません

